

人間発達学部

子ども発達学科教授 金田 利子

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
＜著書＞			
『世代間交流学の創造』 本人分担部分 ① I - 5 「命の継続発展と世代間交流」 pp.69-84 ② II - 3 - 3 「保育者養成における世代間交流の位置と意義」 pp.173-185	2010. 12. 5	あけび書房	（共編著）草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子 ①死から生への類的発展を世代間の大きな転換と捉え、その交流について明らかにした。 ②保育者養成においてこれからの幼稚園・保育園に求められている事として、中高生の受け入れなど世代間交流がある。 その位置づけが弱いのではないかとということから中高生の受け入れによる乳児期の発達効果から、その方法のあり方にまで言及し、保育者養成のカリキュラムにも世代間交流の視点が不可欠である事を提案した。
『育児の中での臨床発達論』 第3章「育児に求められる専門性」 pp.32-50	2011. 3. 30	ミネルヴァ書房	藤崎真知代・大日向雅美 編著 分担の第3章では、育児支援という生活の中で臨床発達の子育て、その特徴について、病院や相談室の中とは異なる側面を明らかにする。
「遊びと学びのコラボレーションによる地域交流活性化システムづくりに関する研究—大学付属幼稚園を根拠として—」	2010. 12. 10	白梅学園大学・短期大学 教育福祉・研究メンバー 年報 No.15 2010 pp.75-81	H21 年度から5年間に渡る私立大学戦略的研究基盤形成支援事業による研究の構想と計画についてその真のねらいとする事を展開した。
「老若男女の平等社会の実現と世代間交流—カオスの状態から分類へ、そして交流へ—」	2011. 2	日本世代間交流学会誌 VOL.1 No.1 pp.67-79	世代間交流がなぜ今必須なのかについて老若男女平等社会、実現に向けての意味を理論的に展開した。

<p>「子どもの発達と世代間交流—生活用具を介した労働的遊びに見る子どもと高齢者の相互互恵性—」</p>	<p>2011. 2</p>	<p>日本世代間交流学会誌 VOL.1 No.1 pp.67-79</p>	<p>主藤久枝と共著 原著論文 今日、子どもたちは、食している食品が何からどうできているのかわからない。これは、味わうことの乏しさを示す。片や食品等の生産・加工過程を知って味わう事は嘗ての生活の中心だったが、その今日的価値に気付いていない大人や高齢者がいる。ここをつなげることで、両者の互恵性を育めるのではないか。一方目を世代間交流の先行実践にあたると、幼老統合の世代間交流はかなり盛んになり、領域別の発達や健康面での効果のエビデンスは示されている。しかし、人格発達の根幹にかかわる効果の研究はまだ見られない。そこでここは、金田の活動特性から見た発達過程指標を使って、高齢者の嘗ての生活様式を、幼児の労働遊びとして、交流活動を保育園で行うことによる相互互恵性を実証し、地域での特性を生かし広げる可能性を探った。</p>
<p>「今子育て支援とは—社会的保育機関の役割—」</p>	<p>2011. 3</p>	<p>財団法人母子衛生研究会編 いま子育て支援とは—子育て困難社会における、子育て支援者の役割— pp.38-47</p>	<p>研究会紀要 「今子育て支援とは」という課題にとりわけ子育て困難社会における子育て支援にとって保育所、幼稚園の役割の大きさについて世代間交流の視点から論じた。</p>

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
1. 日本保育学会評議員	2010 年度任期中	日本保育学会の評議についての審議に参加
2. 日本発達心理学会監事	2010 年度任期中	当学会の運営の在り方、会計についての監査等
3. 日本家庭科教育学会監事	2010 年度任期中	当学会の運営の在り方、会計についての監査等
4. 世界幼児教育保育機構 (OMEP) 日本委員会会長	2010 年度任期中	世界の子どもたちの幸せを願い、国際的交流、研究のそのかじ取りを果たしてきた。
5. 日本世代間交流協会副会長	2010 年度任期中	世代間交流の発展を目指す、協会の運営に会長のサブとしての役割を果たしてきた。
6. 日本世代間交流学会副会長	2010 年度任期中	学会が 2010 年に初めて立ち上げ、副会長としてその継続、発展に尽力してきた。